

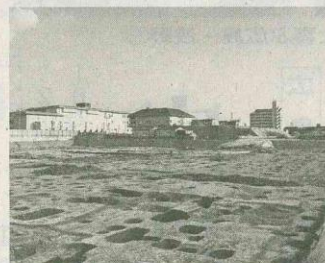
3つの世界遺産など豊富な観光資源がありながら、ホテルや旅館の客室数が全国最低の奈良県。企業が少なくビジネス需要が乏しいうえ、建築規制の厳しさで開発事業者は投資に及び腰だった。ところが、外国人観光客の増加を追い風に新設が相次いでいる。外資系最高級ホテルのほか、かつて計画が頓挫した場所でも新たな動きが出ている。

3月3日、東京都内で米マリオット・インターナショナルの最高級ホテル「JWマリオット」の奈良市進出記者会見が開かれた。場所は近鉄新大宮駅から徒歩10分ほどの奈良市役所の向かいで、森トラストが県有地を買収してホテルを建

奈良、ホテル採算「規制」超え？

列島追跡

設、マリオットが運営する。この場所の高さ規制は31メートルなので7階建てで150室程度になる見込み。海外



発掘調査が続くJWマリオットの進出予定地（奈良市）

外国人増で新設相次ぐ

元首級の宿泊にも対応し、2020年開業を目指す。県はホテル周辺で民間資金を活用する形でバスターミナルやコンベンション施設などを整備する。

奈良県は宿泊施設の客室数の誘致計画を公募。1



光都市は文化遺産があるだけではない。一流の国際ホテルが必要」と述べ、計画実現への強い思いをにじませた。

かつて奈良市内では別のマリオット進出計画もあった。東京の企業がJR奈良駅西口の市有地に誘致を計画したが、08年にこの会社が破綻し計画は頓挫。この土地を15年にフクダ不動産（奈良県橿原市）が買収し、138室の「ピアッツァホテル」とマンションの建設を進めている。

JR奈良駅周辺ではさらに2つのホテルが計画されているほか、橿原市では市が民間資金を活用し、近鉄大和八木駅前に市役所分庁舎とホテルの複合施設を計画している。

（奈良支局長 松田隆）